



6月23日「慰霊の日」 9月7日「沖縄市民平和の日」

6月23日は「慰霊の日」です。沖縄県では戦争の悲劇が再び起こることがないように、恒久の平和を希求するとともに、沖縄戦で犠牲となった御霊（みたま）を慰めるため、6月23日を「慰霊の日」と定めています。昭和20年6月23日に組織的な抵抗は終わりましたが、その後も戦闘は続き、8月6日には広島へ、8月9日には長崎へ原子爆弾が投下され、大勢の人が犠牲となりました。同年、8月15日によりやく敗戦を宣言し、9月2日に東京湾のミズーリ号上にて連合国に対し降伏調印が行われました。

沖縄においては、9月7日に現在の嘉手納空軍基地内(旧越來村森根)に3将軍が召還され、アメリカ第13軍司令官スティールウェル大将に対し「南西諸島の全日本軍を代表して無条件降伏」を申し入れ、6通の降伏文書に署名し、この日をもって正式にアメリカ軍に降伏し、名実ともに沖縄戦が終わりました。 **沖縄市では降伏調印が行われた9月7日を「沖縄市民平和の日」とし、二度と戦争を繰り返さず、後世へ平和を継承していく事を目的に平成5年に「沖縄市民平和の日を定める条例」及び「平和月間等に関する規則」を制定しました。今年には戦後80年、さらに6月21日(土)、22日(日)、23日(月)と3連休の方も多いと思います。この機会に「沖縄戦」について、「平和」について、お子様と一緒に考えてみてはどうでしょうか。**



平和祈念資料館

6月23日は、無料開放日となっています。
開館時間 午前9時～午後6時 ※1時間延長
混雑が予想されます。交通規制等にご留意ください。

糸満市字摩文仁 614-1 番地

Tel098-997-3844

令和7年度沖縄全戦没者追悼式

「児童・生徒平和メッセージ」

「おばあちゃんの歌」

豊見城市伊良波小学校六年 城間 一步輝

毎年、僕と弟は慰霊の日におばあちゃんの家に行つて仏壇に手を合わせウートーをする。一年に一度だけおばあちゃんが歌う。

「空襲警報聞こえてきたら 今は僕たち小さいから大人のいうことよく聞いて 慌てないで さわがないで 落ち着いて入っていきましょう防空壕」

五歳の時習ったのに八十年後の今でも覚えている。笑顔で歌っているから楽しい歌だと思っていた。僕は五歳の時に習った歌なんて覚えていない。ビデオの中の僕はあんなに楽しそうに踊りながら歌っているのに。

一年に一度だけおばあちゃんが歌う。

「うんじゅん わんにん 艦砲め くらえーぬくさー」泣きながら歌っているから悲しい歌だとわかってた。歌った後に「あの戦の時に死んでおけばよかった。」と言っから僕も泣きたくなった。沖縄戦の激しい艦砲射撃でケガをして生き残った人のことを「艦砲射撃の食べ残し」ということを知って悲しくなつた。

おばあちゃんの家族は戦争が終わっていることも知らず防空壕に隠れていた。戦車に乗ったアメリカ兵に「デテコイ」と言われたが戦車でひき殺されると思い、出ていかなかった。手りゅう弾を壕の中に投げられ、おばあちゃんは左足太ももに大けがをした。ウジがわいて何度か皮がはがれるから、アメリカ軍の病院でけがをしていない右の太ももの皮をはいで皮膚移植をして何とか助かった。でも、大きな傷あとが残った。

傷の事を誰にも言えず、先生に叱られても

傷が見える体育着に着替えることができず、学生時代は苦しんでいた。五歳のおばあちゃんが防空壕での歌を歌い「艦砲射撃の食べ残し」と言われても生きてくれて本当に良かったと思った。

おばあちゃんに生きてくれて本当にありがとうと伝えると両手で僕のほっぺをさわって「生き延びたから ぬちぬ ちるがたん」生き延びたから 命がつながったんだね。とおばあちゃんが言った。

八十年前の戦争でおばあちゃんは今も心と体に大きな傷を負った。その傷は何十年経っても消えない。

人の命を奪い苦しめる戦争を二度と起こさないようにおばあちゃんから聞いた戦争の話を伝え続けていく。

おばあちゃんが繋いでくれた命を大切に一生懸命に生きていく。



月桃 (玄関)



平和学習:松川まゆみ先生